

避難所で感染症の恐れ

比の
地滑り
AMD A 診療活動へ

【ギンサウゴン（フィリピン中部レイテ島）21日共同】フィリピン中部レイテ島の規模地滑り

の被災地では、二十一日までに避難所で水ぼうそうの感染が確認されるなど、高温多湿の天候から一日も、被災当時に児童

ら約二百五十人がいたとみられる小学校周辺の捜索、救助活動が続いたが、生存者救出の可能性は極めて低くなっている。

小学校を覆った土砂の上では、この日も沖縄駐留の米海兵隊や台湾の救助隊などが懸命の掘削作業を続けたが、高さが最大三十メートルとみられる土砂は取り除くめどがたっていない。

新たな遺体の収容も困難になってきており、救助活動打ち切りの時期なども今後の課題となりそうだ。

被災地周辺では仮設テントなどの設置が進んでおり、日本の国際医療ボランティアAMD A（本部・岡山市櫛津）のスタッフはこの日から、被災地近くの避難所で初の診療活動に当たる予定。